

はじめに



糸満市長 當 銘 真 栄

糸満は、古くから海との関わりが深く、沖縄県を代表する漁業のまちとして発展してきました。サバニを駆使した独特な追込網漁法(アギヤー漁)の漁場は世界に広がり、漁業に長けた糸満のウミンチュー(漁師)は、「海やから」として讃えられてきました。このように輝かしい歴史を後世に伝える中で、平成18年12月1日に、糸満市・海やからのまち宣言が行われました。

また、平成24年11月には、「第32回全国豊かな海づくり大会」が、天皇皇后両陛下がご臨席のもと本市で開催されたことや、令和4年10月には、県内唯一の第3種漁港である糸満漁港に、高度衛生管理型荷捌施設(愛称:イマイユ市場)が供用開始されるなど「漁業のまち」としての存在が大きくなっています。

しかしながら、本市水産業を取り巻く環境は、全国と同様に、沿岸海域における水産資源の減少や漁場環境の悪化等に加え、新規就業者の減少及び高齢漁業者の引退により、漁業の担い手が減少するなど極めて厳しい状況にあります。

このような中、令和3年3月に、第5次糸満市総合計画(将来像:「つながりを深めチャレンジするまち糸満市を目指して」)が作成され、その計画の中の重要施策のひとつに、水産業を活性化させることを取り上げ、漁業生産の増大と漁家所得の向上を図るため、糸満漁業協同組合、沖縄県、関係機関との連携のもと、各種の施策展開の実現に努めているところです。

なお、今般作成された「第4次糸満市水産業振興基本計画」は、第5次糸満市総合計画の理念を基本として、水産業の活性化を具体的に推進し、糸満漁港を中核とした水産物流拠点としての形成を図りながら、水産業を夢のもてる魅力的な産業に変え、水産都市糸満の望ましい姿の実現に向け取り組んでいく所存であります。

なお、本計画の策定にあたり、貴重なご意見を賜りました水産関係団体をはじめ、本市水産業振興協議会委員各位に対し、心より感謝申し上げます。

令和6年3月